アメリカでは多數の大きな自動車工場フォードの如きが支那の自動車エンジニアを養成することを承知し、五十四名の支那人學生が半箇年の實習を受けるため夏期にはミシガン州のランシングやトレドの自動車工場に這入ることになつてゐると。

25

内閣情報部五・五　情報第五號

重慶ロイテル特報（二一日）（朝鮮總督府遞信局聽取）

「支那側の四月攻勢」に開する報道を批評し支那軍スポークスマンは本日午後の共同會見に於て「支那側現在の各戰線に於ける攻擊を未だ開始されてゐない支那側の總攻擊と一諸にされては困る、支那側現在の各戰線に於ける攻擊は主として日本側が特に大規模な進擊を行はんとして一地點に軍隊を集結するのを阻止せんとする爲である、日本側現在の目的を考へれば支那側の攻擊は完全に成攻してゐる」と述べてゐる。又彼は江西省の首府南昌に對する支那側の攻擊を批評して日本側の最初の意圖は湖南省の首府長沙に向つて大規模な西進を行ふ爲揚子江沿岸に軍隊を集結し粤漢線の完全支配を獲得することにあつたが、南昌方面に於ける支那側の猛烈なる攻擊は日本軍の湖南省への西進を不可能ならしめたと述べてゐる。尚彼は湖北省漢水東岸の戰鬪に關して支那側は江西省で行つたと同樣な戰術を用ひた、即ち日本軍の沙市、宜昌方面へ西進せんとする漢水渡河を阻止する目的を以て襄陽樊城を根據地とする湖北省北部の支那軍は南方への攻擊を開始し漢水東岸日本軍の北方側面を壓迫したので、目下日本側は支那側の南進を阻止せんとして軍隊を北方へ移動してをり、一方漢水沿岸では激戰が續けられ、同地の日本軍は昨朝沙市東北の沙洋に侵入せんとして再び渡河を試みたと述べてゐる。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

重慶日本語放送（三日）　（東京都市遞信局聽取）

一、講演

今より十一年前の五月三日は日本軍閥が山東省濟南に於て多數の中國人を慘殺し、中國の外交特派員の鼻と耳を切り慘殺した日である、二年近くも日本軍閥の侵略して來た今日日本の皆樣に告げたいのは次の事である。

即ち第一民國十七年五月三日の事件は日本軍閥の傳統的對支侵略の行動開始で、何か事件を起す爲めに極つて反日排日を宣傳して居る、日本國民は實狀を知らないので軍閥の云ふ事を信じ切つて居る、實際日本軍閥の對支侵略策は昨日や今日に立てられたものでなく隨分昔から立てられたものである、正確な時は不明であるがその大陸政策に依つて大隈内閣の時の二十一ケ條問題と云ひ田中義一の五・三事件と云ひ皆之で、二十一ケ條要求を日本軍閥の對支侵略の端緒とすれば五・三事件は行動の開始と云ひ得らるるであらう。日本軍閥は傳統的大陸政策として中國の征服を目論み、色々な方法で中國の弱大になることを妨害して來た、民國十五年蔣介石が中國を統一する樣に來たので五・三事件を起した、云はば五・三事件は中國統一運動と日本軍閥の大陸政策との衝突で無論その責任は日本軍部に